

ご挨拶に代えて

投資しようとして投機してしまう人のために^(2019.10.31)

『森本紀行はこう見る <https://www.fromhc.com/column/>』より

fromHC

検索

投資は、株式などを通じて産業活動に資金を投じ、その活動が生み出す付加価値の還元を受けることですが、投機は、株式などの価格の変動を利用したギャンブルです。投資と投機とは、株式などの道具を共通にしても、サイクリングと競輪が自転車という道具以外に共通性がないのと同じように、全く異なるものです。しかし、なぜ、人は、サイクリングに行こうとして、競輪にはまるのか。

日本語の常識として、投資が資金を投じることで、何らかの将来価値のあるものに資金を投じ、長い時間をかけて実現していく価値から資金を回収する意味であることは誰でも理解しています。いうまでもなく、株式投資や投資信託というときにも、この投資の一般的意味に変わりはありません。

一方で、投機とは、単なる価格の変動の機微について、安く買って高く売ろうとし、高く売って安く買い戻そうとするギャンブルのことですから、投資とは全く異なります。決定的な差は、投機は、個々の成功を生むにしても、その総体において、取引費用分だけ確実に損失となるのに対して、投資は、個々の失敗はあるにしても、その総体において、産業界が付加価値を創造し、経済が成長する限り、利益を期待できることなのです。

株式市場の動向が毎日報道されているように、資本市場の価格変動は目立つために、投機が投資であるかのような誤解を与えて、そこに、二つの問題を生じるのです。第一に、健全なる常識をもつ人は、投機と誤認して投資を回避することにより、利益機会を逸し、第二に、常識を超えようとして投資を投機だと信じた人は、投資のつもりで投機してしまうことにより、実損失を被ることです。

実際、サイクリングをしようとして自転車と書かれた門をくぐると、まずは競輪場があり、その先にサイクリングのコースがあるようでは、ついついギャンブルしてしまう人が絶えないのも当然です。

講師：森本紀行

講演内容

債券から得られる金利収入は、投資収益の基本をなすものですから、債券投資の基礎理論のなかには、投資の基本はもちろん、金融の基礎理論全体が含まれます。債券の仕組みを理解することは、投資を考えるうえで、非常に重要なことです。

現在の世界の債券市場は高度に発達しており、そこでは、多種多様な債券が取引されています。米国の債券市場は、巨大な社債市場の存在を背景にして、その深みと厚みにおいて、他を圧倒しますし、エマージング諸国でも、債券市場の拡大がみられます。

わが国では、米国をはじめとする世界の巨大な債券市場のなかの豊かな投資機会が、いまだ、十分には、理解され受け入れられているとは限らないようです。

また、株式は、期待収益率が債券の期待収益率よりも高いとされ、代表的な投資対象に位置づけられてきました。では、なぜ、株式は債券よりも期待収益率が高いのでしょうか。その根拠は何なのでしょう。その答えを得るためには、金融の原点に返って、株式の本質を理解しなくてはなりません。

株式の本質を理解すれば、コーポレートガバナンス(企業統治)の重要性の問題や、企業再編における金融的な諸課題と、それが作り出す投資の機会についても、より深い理解が進むはずです。

今回は、債券と株式の基礎理論の解説を通じて、より広く、より深く、より本質的に、金融と投資の基礎理論へと話を展開していきます。

講演項目

●債券の基礎理論

- ◎事業キャッシュフローとインカム
- ◎債券価格と利回り
- ◎イールドカーブの形状変化と債券価格の変動

●債券の発行体と信用リスク

- ◎日本国債に信用リスクはないのか
- ◎信用リスクを超える収益源泉
- ◎広い債券運用の領域

●株式の基礎理論

- ◎企業の本源的価値の理論的意味
- ◎「グロース」と「バリュー」
- ◎配当と配当性向

●株式とコーポレートガバナンス

- ◎企業再編と投資機会
- ◎ESG

講師略歴

HCアセットマネジメント株式会社
代表取締役社長

森本紀行

三井生命(現大樹生命)のファンドマネジャーを経て、1990年1月ワイアット(現ウィリス・タワーズワトソン)に入社。日本初の事業として、年金基金等の機関投資家向け投資コンサルティング事業を立ち上げる。2002年11月、HCアセットマネジメントを設立、全世界の投資機会を発掘し、専門家に運用委託するという、新しいタイプの資産運用事業を始める。東京大学文学部哲学科卒。

